

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609188		
法人名	有限会社 峰の山		
事業所名	グループホーム みずこしの里		
所在地	秋田県大仙市土川字上雨堤135-1		
自己評価作成日	令和5年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームみずこしの里は、福祉・介護を通じ地域の皆様の健康と豊かな生活づくりに貢献し、愛情あふれる会社を目指します。継続した介護サービスを提供するとともに、介護職員の技術の向上と知識の習得に努めます。利用者が豊かな自然のもと、花壇作り、手芸折り紙で各行事の飾り作り、また家事の分担に取り組み一人ひとりが穏やかに自分らしく生き、介護職員がそれを支えています。尚、太陽光発電を設置し、環境に優しい施設作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周辺は緑も多く、四季を感じながら過ごせる環境にあります。災害時の近隣住民の避難場所ともなり得る広々としたスペースを建物の内外に有しており、地域との関わりを大切にしているホームとしては地域の防災の一翼を担って地域貢献に繋がっていくものと思われまます。職員と一緒に或いは手助けをしながら利用者が生活の中で無理せずに関われる場面がつけられ、役割をもって暮らせる支援が行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	専門技術や知識を高める為に常に職員の質の向上に努め全員が理念を共有出来るように話し合いをしている。	地域貢献しながら共に生活していくことを法人の理念として開設当初からのものが掲示されています。理念について話し合う機会がないため、全職員に浸透しているとは言えない状況です。	法人の理念の他に全職員で取り組む目標(心構え)をつくり、共有して実践に繋げる工夫を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや各種イベントには入居者・職員共々参加させて頂き、交流をさせて頂きましたがここ数年コロナ禍によりその機会が減少している。	地域との繋がりを大切にして運営してきた経緯がありますが、感染症対策により、最近では交流の機会を持てずにいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ホーム内行事を実施するにあたり、地域の住民を受入れ出来るような計画・声掛けなど取り組んでいる。しかし、コロナ禍により計画は中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様及びご家族様・介護保険事務所・自治会長・民生委員等の方々からご参加頂き、地域との交流を図りサービスの質の向上につながるよう努めている。出席者からの意見を真摯に受け止めサービスの向上に向けて取り組んでいる。	書面上の会議が続いていますが、会議メンバーに資料送付後、意見を返信していただき、運営に活かせるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に電話連絡したり、出向いたりして協力関係作りに取り組んでいる。	管理者、介護支援専門員が関係部署と連絡をとり、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをいつでも見られるようにしている。全体会議でも話し合いの場を持ち防止に努めている。問題が起こった際は、施設などで話し合いの機会を持ち真摯に対応するように努めている。	事例を通じて話し合う機会もあって職員は理解して取り組んでおり、身体拘束をしないケアに努めています。言葉遣いにも留意するよう、日頃から注意喚起しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各利用者様の状況を把握し、必要な場合は活用できるように支援している。開設者については研修会にも参加している。問題が起きた際は、施設内で話し合いの機会を持ち真摯に対応するように努めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の来訪の際または郵送の方法をとり利用者家族への説明同意を得ている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご家族様の来訪の際または郵送の方法をとり利用者家族への説明同意を得ている。	家族からは感謝の言葉が多いものの、意見、要望が引き出せるように努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月1回の全体会議で職員の発言や提案をする時間を設け、意見交換している。	職員の意見、提案事項については全員で話し合っって対応を検討することにしており、日常のケアに反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を行い、相互のホーム内の活動を検討する機会を持ち、向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接をし、本人の不安や要望を聞き、安心して暮らせるように努めている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族様の要望等を聞き、良い関係作りができるよう努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様の会話に耳を傾け、共に暮らす者同士の関係作りに努力している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一回、その月にあった行事などをお便りで報告している。利用者様の近況報告として各担当者が行事の際の様子なども記入している。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	利用者様の昔話や仕事の話に耳を傾け、馴染みの人などとの関係作りを支援するよう努めている。	コロナ感染状況に応じて家族との面会の仕方を工夫し、現在は室内での面会にも対応しています。また、関係性が途切れないように通院介助や帰宅等に家族の協力が得られています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤立しないように、職員が間を取り持ち、一緒に過ごせるように配慮している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援・要望に対し、常に相談対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様個人のペースに合わせ、食事や入浴・体操・散歩など意向に沿った支援を行い、ご本人のストレスにならないような援助に心掛けている。	職員との会話で利用者の希望や思いを知り、申し送り等で情報交換し、日々の生活に反映できるよう努めています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報をご家族様より収集し、今後のサービスの向上及び一人ひとりが穏やかな生活を送れるよう把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを実施、またご家族様の面会時には意見を伺い、それに基づいたケアプランの作成に努めている。	担当職員が中心となってモニタリングを行い、他の職員、家族、訪問看護師、医師の意見を参考にして介護計画を作成しています。	介護計画に基づいてモニタリングに反映できる記録となる取り組みを期待します。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りにて職員間の情報を共有しモニタリングに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花壇の花植えの際には、利用者様にもご協力頂きまたボランティアの受け入れ時など、楽しんで頂けるよう支援している。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診、かかりつけ歯科医受付を定期的に・本人の希望時・体調不良時に援助している。	内科受診に関しては、訪問診療が行われていることから協力医への変更が行われ、入居時に了解が得られています。他科の診療に関しては入居前からの医療機関で継続受診しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションの協力を得て週1回看護師によるバイタルチェック、利用者様の体調の変化などに対する相談など適切な支援をしている。24時間連絡体制も取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時は早期に退院できるよう、医療連携室との情報交換を行い、面会により様子の確認を行っている。今はコロナ禍により家族様と要望、調整を行っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向やかかりつけ医からの意見を確認しつつ、ホーム側の対応について職員も意見交換し職員全員が同一の方針を共有することに努めている。	これまで看取りの経験はありませんが、重度化した場合の指針が策定されており、今後要望があれば指針に則って支援することとしています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防分署の協力を得て、年2回訓練を実施している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際には、職員一人ひとりの実践力を身につけ、また地域住民の方にも可能な時は避難の手助けの訓練、消火器を用いた消化訓練に参加して頂いている。	火災を想定した避難訓練を行っていますが、さまざまな災害に応じた対策への課題も見受けられます。発電機の燃料の取り扱いや飲食物については対応を検討中ということです。	避難場所の状況を確認し、安全に安心して過ごせるよう必要な備品等を確認し、準備することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保ができるように徹底している。利用者様の尊厳を重視し、丁寧な言葉遣いとプライバシーに配慮した声掛けをしている。個人記録ファイルは事務所保管とし、他の利用者様の目に触れないよう配慮している。	一人ひとりを尊重した対応をすること、特に言葉遣いや接し方については指導を徹底しています。入浴時の同性介助にも配慮しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容を支援し、できるだけ要望を聞き、外出時はご本人と外出着を選び外出できるように支援している。化粧品等の購入の要望はご家族様と相談しながら対応している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食後の後片づけなど、職員と共にご本人のできる範囲で行って頂けるよう依頼している。	無理せずにご自身の力を活かしていただくことで利用者の力が活かされています。お弁当を注文して駐車場で花見を楽しみ、野菜を植えることも検討しており、工夫しながら食事を楽しむことができる支援に繋がっています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を毎日記録し、状況を把握している。食事は個々に合わせ、必要な場合は粗刻みするなど、状態に合った支援をしている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声掛けや見守りにて行い、就寝時には義歯洗浄を使い清潔を保てるよう支援している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、誘導・声掛けをして排泄を促し、自立に向けた支援を行っている。失禁時には他利用者様に気づかれないよう配慮して支援している。	個々の排泄パターンに応じた支援が行われていますが、改善に繋げることは難しくなっており、状態に合わせて排泄用品を使用しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝は牛乳、昼はヨーグルト、毎食野菜を取り入れるよう努めている。また、ほぼ毎日のラジオ体操(1日2回)にて便秘予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回、入浴・シャワー浴など、ご本人の希望に沿えるような体制をとっている。	本人のその日の気分によってシャワー浴に変更する等、希望に沿って入浴できるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意見を尊重し、日中は居室・リビング・和室など、本人の望む場所で、夜間は居室にて気持ちよく休憩できるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・目薬は職員が管理し、副作用や用法・用量を確認、医療関係者と相談しながら支援・確認に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	仕事の支度・後片付け、掃除など、それぞれの出来る範囲で行って頂けるよう支援している。嗜好品については個々に買って頂いたり、職員が代行したりして支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春には花見、秋には紅葉観にドライブなどを定期的に計画しているが現在はコロナ禍のため少人数で複数回に分けてドライブに行く等になっている。	ホームの周辺に緑が多く、敷地内に花壇や桜の木もあり、遠出をしなくても外気浴ができる環境があります。野菜を植える予定があり、職員の作業を見るだけでも戸外で過ごす時間をつくることができます。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、希望される方については多少のお金を所持して使ってもらっている。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や掘ごたつのある和室などの広い共有空間となっております。また近隣の田んぼや敷地内の花壇にて季節を味わって頂けるよう工夫している。	縫製工場を改装していることから広いホールがあり、コロナ終息後にはホームの行事や地域の方々を招待して多目的に活用できることが期待されます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室であり和室やリビングのソファ、廊下のテーブル席など色々な場所で過ごせるよう工夫している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室へは馴染みの物を自由にお持ち込み頂きご本人が居心地よく落ち着いて過ごせるようにしている。	ベッド、タンスはホームで用意している他、電気製品等は持ち込みを制限しているものがありますが、好みものを持ち込んで自分の生活の場としています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、廊下・トイレには手すりを設置し、安全に行き来できるように工夫している。		